



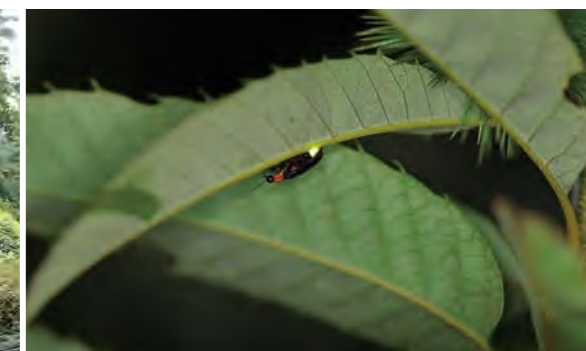
市内唯一の水田では稲作体験を実施している



水田や雑木林には散策路が設けられている



野川沿いにある水車のモニュメント



夏にはゲンジボタルが観賞できる



自然豊かな野川

自然環境・エコロジー

残された農地を活用して生まれたふるさと空間

ふれあいの里・大沢(東京都三鷹市)

■ プロジェクト実現のプロセス

三鷹市には昔、中島飛行機などの軍備工場が点在していたが、その多くは解体し、住宅地開発が進んでいった。住宅地が増え、以前とは異なる風景に変化していくなかで、市は、昭和48年に緑化保全に向けて緑化推進係を設けた。昭和63年には「三鷹市緑計画」を策定。地元住民に「自分たちのまちをこれからどのようにしていくべきか」という内容の調査を実施すると、市民からは「せっかく緑豊かな土地なのだから、それを残していきたい」という根強い意見が出された。

そこで三鷹市は平成4年1月に、公園的な都市空間の創造を目標のひとつに盛り込んだ「第2次三鷹市基本計画」を確定し、

その実施計画として平成6年に「緑と水の回遊ルート整備計画」を策定した。市内を流れる野川、仙川、玉川上水沿いに残る樹林や農地などのふるさと資源を生かしながら、保全・修景整備を進めることを決定。そして、それぞれの河川および上水沿いに「大沢の里」「牟礼の里」「丸池の里」を拠点とする3つのふれあいの里を設けた。

■ 「大沢の里」の背景

大沢周辺は戦後、工場跡地にアメリカ軍により国際基督教大学、ルーテル学院大学、東京神学大学の3つのキリスト教系大学が創立され、ゴルフ場が造られるなどして開発が進んでいくが、「大沢の里」一帯は、手つかずのまま当時の姿が残されていた。農地や水田が広がり、隣接する野川は都市

河川でありながら、コンクリート張りの護岸工事がされておらず、自然の植物が生い茂る河川敷が延びている。

また、大沢はわき水が出る、水源にも恵まれた土地である。武蔵野台地に降った雨が地下水となり、その地下水の出口が井の頭公園、石神井公園、そして三鷹市大沢あたりで、いずれもわき水で有名な場所。野川はハケと呼ばれる国分寺崖線からわき水が流れ落ちるため、水が澄んで良質なのだという。きれいな水が豊富なので、市内では珍しいワサビも栽培され、夏にはホタルが舞う。

「特有の地形と歴史的背景から、『大沢の里』は三鷹市でも至る所で都市開発が行われるなか、自然豊かな地域性を活用して、市民が親しめる環境空間として整備されて

います」と「株式会社まちづくり三鷹」事業部総務グループマネージャーの川口幸雄さんは話す。敷地内には市民農園のほか水田やワサビ田、雑木林に山横穴墓群といった遺跡があり、農と自然、歴史的資源によって、のどかな風景が生み出されている。

■ 「大沢の里」の取り組み

「大沢の里」の運営は、三鷹市の第三セクターである株式会社まちづくり三鷹が市から委託されて行っている。株式会社まちづくり三鷹は、三鷹市全域のまちづくりを総合的に支援することを目的に設立された。民間の柔軟性・スピードと、自治体の公共性・公益性を兼ね備えた、まちづくり支援機関として、市民主体のまちづくり活動および産業振興を支援している。

「大沢の里」は、「大沢ふるさとセンター」を中心とした市民農園と、稲作が体験できる水田、国分寺崖線など自然豊かなエリアから構成されている。

市民農園では、地元農家の協力を得て3758㎡を市民に提供している。82区画あり、1区画25㎡(5×5m)。使用料は4月からの2年間で3万円。市民を対象に2年ごとに募集をかけるが、毎回、平均して定員2倍以上の応募があり、抽選を行うほどの好評ぶりだ。ほかに、畑の一部で親子対象の体験農園も行われている。

大沢ふるさとセンターは、多摩東京移管百周年記念事業「TAMAらいふ21」の一環である三鷹市ファーマーズセンター事業の拠点施設として建設された。木造2階建てで、1階には休憩室や流し台、トイレ、

シャワーなどが備わっており、2階は和室のミーティングルームが2部屋ある。現在は憩いの場として、市民農園利用者をはじめ一般に開放している。センターには相談員が2人おり、月・火・木・金は1人、土・日は2人が勤務して、センターおよび市民農園の管理をしている。

市内で唯一残る水田は、委託を受けた市民ボランティアである「はたるの里・三鷹村」が管理している。次代を担う子供たちの活動を中核として位置づけ、子供たちに自然を大切にする「こころ」を育てることを目的に、田植えから稲刈りまでできる「親子ふれあいちびっ子農業体験」を行っている。市民ボランティアは田植えや稲刈りの指導だけでなく、田植え前に水田を整える代かきや、自生するゲンジボタルの発生環



「大沢の里」にある人気の市民農園



夏場、皮の黄色いスイカを数カ所で栽培していた



撮影した7月中旬には大きなトマトがなっていた



作業の合間に休憩もできる大沢ふるさとセンター



畑の手入れをする市民農園参加者

境の保全も手掛ける。

■ 仕組みと工夫

市民農園の参加者の70%が定年退職した男性、対して女性は若い人が多いという。「大沢の里」は三鷹市の外れにあり、最寄り各駅から遠いが、周辺住民への配慮もあり自家用車の乗り入れは基本的に禁止している。肥料の運び入れなど、かさばる荷物を運ぶ際には車の利用も考慮しているが、農機具を無料で貸し出しているため、普段の荷物はそれほどでもないせいか、多くは自転車で行き来していて、交通手段はあまり問題視されていない。センター内にはトイレや休憩スペースがあるだけでなく、お茶も用意されている。作業途中に宿宿りもでき、施設のある市民農園ならではの快適

さがある。

畑を提供する市民農園であるため、特定の指導者はおらず、ほとんど独学で作物を栽培するスタイルだが、必要に応じて地元農家や大沢ふるさとセンターの相談員がアドバイスをするほか、年に1回、専門家による講習会が開かれる。作物は区画内に4、5種類を1列ずつ栽培する人が多く、夏場はナス、キュウリ、トマト、トウモロコシ、スイカなどが、その他の時期はキャベツ、ブロッコリー、ダイコンなどの作物が人気だという。なかには家族の健康のために、ウコンのような珍しいものを育てる人もいる。また、夏には収穫物のコンテストも行なうなど、単に土地を提供するだけでなく、参加者間でのコミュニケーションにも配慮している。

「ほたるの里・三鷹村」が主催する「親子ふれあいびっ子農業体験」では、小学生以上の親子200組を対象に稲作を指導している。栽培するのはもち米で、精米にすると毎年約500kgが収穫できる。収穫したもち米は地元イベントでもちつきをして参加者に振る舞われるほか、小学校の授業用としても提供される。

■ 新しい役割と魅力

「大沢の里」では、畑や水田の参加者だけでなく多くの市民がこの場を訪れて親んでもらえるよう、各種イベントを行っている。市民農園の親子体験農園では、中学生以下の親子を対象に種まき、苗植えから収穫までを、農家の指導を受けながら体験できる。

「当初100人を目安に募集をかけましたが、予想を超える好評ぶりです。120人40組の親子が農作業を楽しんでいます。『ほたるの里・三鷹村』が、7月に開催するほたる祭りは、水田横の水路にヘイケボタルを放ち、ホタルの光を楽しんでもらう趣向で、毎年2000人以上が訪れる人気イベントになっています」と川口さん。ほかにも、春にはレンゲ祭り、11月にはミニSLや模擬店、野菜即売などが楽しめる秋祭りなど、四季を通して催されている。

また「大沢の里」は、歴史と自然を体感できる散策ルートにもなっている。市民農園横には国立天文台があり、歴史的建造物を中心としたエリアは一般公開されている。市民農園から野川に向かって階段を下りていくと、東京都有形民俗文化財の水車

のある小屋が現れ、水田にたどり着く。水田や国分寺崖線にはウッドデッキの遊歩道が設けられ、ワサビ田や水田、遺跡を散策しながら進んでいくと、また市民農園に戻ってくる、といった具合だ。

都心にほど近く、「三鷹TMO構想」に基づき三鷹駅前の中心市街地エリアの活性化を推進していく一方で、その地域のもつ歴史や自然を大切にしまちづくりを進めていく。都市開発が進むなかでも、市民の声に耳を傾け、残された農地をうまく活用したことで、バランスのとれたまちづくりを実現し、時代に求められる魅力的な景観ができあがったといえる。

プロジェクト概要

所在地	東京都三鷹市大沢2
土地面積	大沢の里23ha (市民農園3758㎡)
施設概要	大沢ふるさとセンター 敷地面積390.74㎡、建築面積113.3㎡、延床面積160.65㎡、木造 1階/休憩室、事務室、トイレ、更衣室(シャワー付き)、農機具収納庫、手洗い・足場洗い 2階/ミーティングルーム、トイレ その他/駐輪場12台
計画地域	都市計画区域
施行者(事業者)	三鷹市
連絡先	株式会社まちづくり三鷹
URL	http://www.mitaka.ne.jp/index.html